

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572308906		
法人名	株式会社サポート昭和		
事業所名	グループホーム 梅の里		
所在地	秋田県潟上市飯田川下虻川字八ツ口49-2		
自己評価作成日	令和1年10月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	令和1年10月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私たちはその方の心の声に耳を傾け、受容することで一人一人が自分らしく住み慣れた地域の中で安心して楽しみのある生活が出来るようなケアを目標にしています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近所に小学校や保育園があり、子ども達と交流ができる恵まれた生活環境にあります。また、近隣他施設との交流もあり、行事に継続的に参加して地域や自然に触れ合う機会をつくって暮らしの中で地域と接点を持つよう支援しています。職員は毎日の業務に忙しさを感じていると思いますが、日々の取り組みを柔軟に行い、その一方で利用者はそれぞれのペースで穏やかに過ごしている様子がみられました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を理解して実践できるように、職員のミーティングの際に掘り下げディスカッションするなどの努力をしている	理念と共に15ヶ条の心得が事務所内に掲示されており、実践に繋げていけるよう努力しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買物には、必ず入居者の方と一緒に行き交流を図っている。また、個別での外出機会を設けホーム内だけの閉ざされた生活にならないように心がけている	子ども達の学校の行き帰りには挨拶を交わし、地域や他施設の行事にも継続的に参加して利用者が地域と関わりを持ち続けられるよう努力しています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	年に数回の行事の際に入居者の方々と交流を図り理解してもらえるように努めている。また、会議等でも勉強会なども行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的で開催しており、地域に向けての情報公開もしているが出席者が固定化しているのが課題である	ホームの現状、取り組みを報告し、参加者から地域の情報等を得てサービスに活かせるよう努めています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的な役所訪問し、状況報告を行うとともに運営会議に出席していただき助言等もいただいている	行政担当者とは入居状況を報告して運営上の相談を行い、情報交換を密にしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を徹底することにより身体拘束をしない介護に取り組んでいる。	職員配置によっては日中の時間帯に止むを得ず施錠することはありますが、身体拘束をしない介護を基本としています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の起こる要因、認知症に対する理解、人としての理解を随時話せる環境づくりに努めている。また、日頃職員との会話の中で些細な変化にも気づけるように精神的な面でのケアについても意識している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在対象となる利用者様はいないが、今後支援がスムーズに出来るよう研修等の参加を積極的に行っていきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前訪問時に疑問や不安な点を聞き、理解、納得していただけるよう意識している。契約時における説明に時間をかけお互い納得したうえでサービスの提供がはじめられるよう心掛けている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が意見を言いやすい雰囲気作りを心掛けている。運営会議で出された意見も運営に反映するようにしている	年1回開催される家族会が意見を引き出せる良い機会となっており、運営に反映できるよう努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議、ミーティングの際に意見を発言できる機会があり、提案を取り入れてくれることもある	毎月の会議を利用して職員が自由に意見を述べ、現場の意向等を聞く機会をつくっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会議時にしか来ないことも多く、不在なため、管理者との連絡はとれているが、職場の状況を把握できているかは不明である		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要となる共通の知識や技術については、交代で外部研修の参加を行い、その後報告共用できるように努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会の会議、研修に参加し同業者との交流を図っている。また情報交換を行える研修等にも積極的に参加しサービス向上につながる為のヒントを得られるように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前に面談時間を多くかけて、利用者様の理解、問題等を傾聴し信頼関係が構築できるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様が抱えている悩み、不安を聞き施設に対して理解をもったうえでサービス開始に繋げている		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ないことより、出来ることを見出し、協力し家族として生活が送れるように努めている		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所時の時点から共に考えていける関係性を築けるよう努め、ご家族様の状況を踏まえた上で、可能な限り協力していただけるような関係となるようにしている		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけ病院を継続していることで、受診時に馴染みの方との交流が図れている。また地域の行事にも積極的に参加し、その場で対面すること等に努めている	定期受診や買い物等を通じてその人が楽しみにしていることが継続できるよう工夫しながら取り組んでいます。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活を行うものとして、食器の片づけや散歩時車いすを押してもらったり、助け合える瞬間を大切にしたい支援が行えるよう意識している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	出来る範囲で相談、支援に努めている。入院後の転居先が決まっていない方の洗濯や必要物品の購入等家族様の置かれている状況を踏まえながら支援できるようにしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人はどうしたいのかという事を考えた支援を心掛け、意思表示の困難な方に対しては、その方の性格や生活歴、その他家族様から得た情報を踏まえ本人主体となるような関わり方がもてるよう努めている	申し送りで日々情報交換を行っていますが、記録に残しておらず、情報共有できていないことが多々あります。	情報を共有する工夫をしながら利用者の生活を豊かにする取り組みを期待します。
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初期の段階だけではなく、継続的にその方を知るためにご本人、家族様、周囲の方から、性格、生活歴の情報収集をこまめに行えるように努めている		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	認知症だからというような考え方ではなく、一人の人である事を念頭に置き可能な限り職員の都合で本人様の過ごし方を決定しまわれない様に状態把握しながら本人の意思を確認しながら、無理強いのないような生活支援に努めている		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員は日頃より本人の気持ちの把握に努めており、その情報をもとに介護計画を作成している	カンファレンスで担当職員が現状を報告し、他の職員の意見を収集して管理者が介護計画を作成しています。	記録の負担を軽減するための効率化を図り、介護計画に沿った接遇ができることを期待します。
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	特記事項については細かく記入するように努め、記録の内容や書き方については今後の会議などを利用しより良いものになるように話しあっていきたい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアさんや近隣の保育園、小学校との交流を図るなど資源の活用を心掛けている		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医、薬局は入所後も継続的に利用し急変時の対応も出来るよう支援している。また訪問歯科を活用していることで、来所時に相談助言をもらい、本人様の要望に添える支援に努めている	本人のかかりつけ医で受診が継続できるよう支援しています。訪問看護師を通じて協力医との関係づくりも行われています。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護を利用していることで、身体状況の報告や気づいたことを密に伝えアドバイスを受けている		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関と連絡を取り合い、円滑に退院までの流れを作れるように努めている。入院期間中も関係性が途切れないよう、可能な限り面会に行けるよう環境づくりを心掛けている		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けたホームの体制が出来ていないが契約時に、体調が悪化した際にどのような形を望んでいるかの確認をし、看取りをおこなっていない旨の説明をし、方向性を共有できるようにつとめている	現在対象者はありませんが、協力してくれる医師が確保できないため事業所での看取りは難しいこと及び、ホームででき得る支援を行うことを入居時に説明しています。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルをもとに、職員が内容把握し対応できるように努めているが、申し送り等が不十分な点もあり全職員が冷静に対応できるように連携体制を再度確認し努めていく必要がある		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難訓練を消防署立ち合いで年2回実施し、避難方法や対応を職員交代で行っている。消防署の方から助言もいただいているが参加していない職員もいるため日頃から意識してもらえよう取り組んでいきたい	防災管理者が中心となって日中、夜間を想定した訓練を行っています。緊急時に協力してくれることになっている近隣住民はいますが、訓練には参加していません。	さまざまな場面を想定した訓練計画を作成し、地域の協力を得ながら安全に避難できる体制づくりを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	過去の性格や生活歴、また入所されてからの様子などを踏まえて、日々の生活の中で関わりを持つ意識をしている	新任職員には、利用者のこれまでの生活を把握してもらい、OJTを通じて日頃のケアに配慮できるよう取り組んでいます。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人はどうしたいのか、また意思表示が困難な方は本人ならどうしたいのかという本人主体となる考え方を念頭に可能な限り本人の思いや希望を表現できるような関わりを意識している		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意思で行動できるような声かけの工夫は行っているが、職員配置の関係や何か重なってしまった場合、こちら側の都合になってしまうこともあるので可能な限り希望に添えるような支援を考えていきたい		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	最低限の身だしなみのおしゃれが出来るよう意識はして接している。その他で訪問美容室やお化粧教室、ネイル教室などその人らしい個性が出る時間を提供している		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	時期の食材、メニューをいれたり、定期的にお膳を変えてみたりと食事に楽しみが持てるよう努めている。また職員も一緒に会話しながら食事を行うことで楽しみにつながる食事となるようにしている	利用者には食事の下準備や後片付け等をお願いし、利用者も快く手伝っています。積極的に声かけて楽しく食事ができるよう配慮しています。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に食事、水分量を記録し栄養バランスの良い献立になるように話し合い、形態や量など工夫している。本人の好みもあり、偏った摂取になっている方には声かけし摂取していただけるように努めている		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声かけを行い、清潔保持に努めている。義歯洗浄も夜間のみならず、その方に合わせ日中対応するなどしている。また訪問歯科と連携し随時相談を行える体制に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に排泄の間隔、トイレに行きたい時のサインを共有している。また随時検討を行い、可能な限りトイレでの排泄が行えるように取り組んでいる	利用者個々に合った対応をし、なるべくトイレで排泄できるよう支援しています。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の支援の中で可能なかぎり体を動かしてもらえるような支援を意識しながら、そして乳製品を摂取してもらうなど便秘予防に努めている。また主治医への相談、必要時は薬の処方をしてもらうなどしている		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週4回の日中の入浴日を設定し、希望者に入浴していただいている。入浴剤もその日の希望の物を交代で選んでいただき楽しんでもらえるよう努めている	拒否する方もなく、週4日の入浴を楽しんでいます。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気温、湿度、明かり等の変化に気がつけながら対応している		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	最新の薬の説明書をケース記録に入れ、変更があった場合申し送るだけでなく、個々に把握できるようにしている。薬が変更した際は状態の観察を細かく記録するなどしている		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活における役割については継続して行えるようにしていき、新たな役割を見つけられるように努めたい。散歩や歌、塗り絵ご本人が楽しみと思えることについても行っているが新たに探せるような関係も作っていききたい		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来るだけ希望に添えるよう、近隣の散歩やドライブ、買い物、家族の方々とのお食など日常的に行っている。	買物の希望に応える等、利用者がストレスをためないためにも一緒に外出し、馴染みの環境に触れることができるよう支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	立替制度をおこなっているが、ご本人の能力、希望に応じ自己管理されている方もいる。管理されている方には、紛失された場合の事も含め日常会話にて理解していただいている		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話かけるなどの支援はしている		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除箇所を職員で分担し行き、清潔の保持に努めている。その他、明るさや温度、定期的な換気等も行い、心地よく過ごせる様に工夫している	共有スペースは利用者が安全、自由に過ごせるよう整理されており、掃除の際には利用者も手伝い、職員と一緒にしています。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング以外でも独りの時間や気の合う入居者同士や職員とも関わりを持てるようにしている		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に馴染みの物を可能な限り入れてもらえるようにして、環境の変化を最小限に出来るようにしながら、配置も本人が不快とならないよう配慮し居心地のよい空間となっている	利用者の持ち物はさほど多くはなく、ホームでの生活に必要なものを居室内に配置しており、清潔に管理された生活の場となっています。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	構造上リスクがある部分を理解しつつ、可能な限り工夫を行っている。今後もリスクがある部分への対応を検討し、自立した生活が送れるよう支援していきたい		